

みちのくおとぎ街道

「ツール・ド・みちのくおとぎ街道グル麺ライド」が開催されました！



▲みちのくおとぎ街道(宮城県七ヶ宿町)を駆け抜ける

2023年9月24日山形県高畠町、南陽市、宮城県七ヶ宿町、白石市のみちのくおとぎ街道にて、「第5回2023 ツール・ド・みちのくおとぎ街道グル麺ライド」が行われました。

みちのくおとぎ街道は、山形県南陽市から宮城県白石市までの二市二町を結ぶ街道で、「鶴の恩返し」や「泣いた赤鬼」など様々なおとぎ話や童話の里であり、懐かしい田園風景や起伏に富んだ地形、江戸の賑わいや昭和の面影が息づく歴史街道です。

ライドの種目は110kmの1種類のみで、コースは大きな峠はほとんどなく、ロングライドデビューにもぴったりです。また、エイドステーションでは、コース上の各地に根づくみちのくならではの4種類の「ご当地麺」を食べ尽くします。今回レポートするのは、高畠町、七ヶ宿町のエイドステーションです。今回、県内外から約300名が参加されました。



▲スタートをきるライダーたち（高畠町文化ホールまほら）



▲スタート地点(山形県高畠町)を出発し、みちのくおとぎ街道(宮城県七ヶ宿町)を駆け抜ける

イベントでは、約 20 人 1 グループに分かれサポートライダーと一緒に、みちのくおとぎ街道を巡りました。スタート後、すぐに「みちのくおとぎ街道」に入り、一路宮城県へと西進します。白石川沿い七ヶ宿ダムまでを往復した後に山形へ戻るコースとなっています。高畠町と南陽市の田園地帯は、この時期収穫を待つ稲穂が色づき、美しい姿を望みながらライダー達はコースを駆け抜けます。

各休憩所やエイドステーションで振舞われるのが、大会明媚もあるご当地麺の数々。大会の舞台となる 4 つの地域にはそれぞれ自慢の麺料理があり、各エイドを巡ることで、それら全てを味わうことができるという「グル麺」体験ができます。



▲二井宿峠を越えたライダーたち



▲ふるまわれた飴

はじめのエイドステーションとなる「こ・らっしえ (宮城県七ヶ宿町)」では、七ヶ宿町名産の蕎麦を堪能。参加者のみなさんからは笑顔がこぼれました。

ふるまわれた七ヶ宿町の蕎麦▶





▲黄金色に染まるみちのくおとぎ街道を駆け抜ける

4つの麺以外にも、フルーツ大国山形らしく、りんごやシャインマスカットといった旬のフルーツも振舞われます。

2市2町を結ぶ「みちのくおとぎ街道」。「おとぎ」文化（民話・物語・伝承）の発掘と継承を推進し、地域内交流の拡大と観光誘客の促進を図るため、PRとなるようなイベントの実施や情報発信に努めることと共に「みちのくおとぎ街道」にふさわしい景観・空間づくりを目指しています。

※「グル麺ライド」は、現在のところ 2024 度以降の開催中止が決定しています。



▲休憩所二井宿 JA 集荷場へ到着したライダーたち



▲ふるまわれたシャインマスカット



▲集合写真